

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700281		
法人名	医療法人 光佑会		
事業所名	グループホームじゃんがら		
所在地	平戸市浦の町730-1		
自己評価作成日	平成24年11月	評価結果市町村受理日	平成25年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・協力病院がすぐ近くにあり、休日や夜間の時間帯でも緊急時に対応できる。また、理学療法士によるリハビリ訓練を年間を通じて、受けることができ、入居者本人や家族の満足度が高い。</p> <p>・特定施設ケアハウスと併設しているため、夏祭りや敬老会、新年会や忘年会等合同で行なうことによって、盛り上がった年間行事を開催している。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平戸の中心部に位置し、母体医療機関と隣接する場所に事業所はある。事業所の「明るく楽しく美しく、和を大切に思いやりの心を持つ」「地域の方々とのおふれあいを支援する」という理念は職員に浸透しており、利用者が家庭的な笑顔の絶えない毎日となるよう支援している。今年度管理者が交代しており、着任した管理者は前向きな姿勢で自ら課題や気づきを持ち、改善に向けて努力されており今後更なる変化が期待できる。一日の中で利用者が選択する場面作りが多数見られ、入浴時の着替えやおやつバイキングなど本人の意思を尊重しケアする姿勢が貫かれている。職員は利用者が年々重度化する中でも本人の尊厳につながる排泄については、車椅子利用者であっても夜間トイレでの排泄を支援しており、利用者本位のケアに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂や職員トイレに掲げ、毎朝、朝食前の嚙下体操後に利用者と一緒に言葉で発し、意識を高めている	「明るく楽しく美しく、和を大切に思いやりの心を持つ」「地域の方々とのおふれあいを支援する」を理念に掲げている。職員は利用者に家庭的な笑顔の絶えない毎日となるよう支援しており、身だしなみを整え、生活環境を整備しており理念を具現化し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のケアハウスの入居者とイベントと一緒にいたり、通院時挨拶を交わしたり、近隣の保育所や学生のボランティアを受け入れ、交流している	隣接する商店街の祭りは見学だけの参加となっている。公民館活動に参加したり、公民館館長に2度見学に来てもらい交流できる可能性を探ったが現在のところ繋がるまでには至っていない。地域の高齢化が進んでおり、自治会活動は活発ではないため地域の情報収集が難しい。	結果は芳しくないものの、地域との交流に向けた様々な取り組みが行われており、今後も継続することで、地域への理解を得て交流できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設見学者などに説明を行っている 要請があれば、対応する		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設サービスの取組状況や結果報告を行っている	今年はこれまでに3回開催している。規程のメンバーの参加に向けて努力しているが、家族の参加がない。内容は状況説明が主であり、メンバーからは家族が参加するための工夫が必要との意見交換が行われている。	運営推進会議は年6回、家族も含めた規程のメンバーで開催することが求められる。家族が参加できるための検討・工夫を行い、会議で出された意見等を運営に反映させることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で疑問点や確認事項等積極的に働きかけを行い、電話やファックスで指導を受けている	包括支援センターからセミナー等の案内があり、受講している。事務手続きについては、法人本部が行っている。事故報告を行う場合には市担当課に問い合わせ、その後報告を行っており、適宜連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人全体で身体拘束をしないケアに取り組み、勉強会や職員研修会にも参加している	外部研修終了後、受講していない職員は資料を閲覧している。マニュアルは整備しており、職員の基本となっている。絶対廃止の方針で現在も4点ベッド柵や施錠など身体的拘束は行っていない。言葉による拘束については、その都度注意し、話をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で勉強会が行われ、その内容を理解し、必要な人には、対応出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り、家族に説明を行い、理解・納得されているか確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の態度や言葉から不安や要望を聞くようにしている。また、家族に対しても面会時状況を説明したり、意見・要望を聞くようにしている	面会時に生活状況を説明し、家族からの要望を聞き取り申し送りノートや口頭、メモ等で職員で共有している。遠方の場合は利用者と一緒に電話をかけて話す機会を作っている。手紙のやりとりもあり、家族の意見や要望を把握するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理会議では、法人全員の管理者の意見を聞き、今後の動向と対策を検討している。また、グループホーム会議では、管理者、職員からの現状報告を行っている	月1回の職員会議では現状報告を行い、その中で行事の日程調整や入浴チェア、テレビ、ポットなどの購入希望があり、反映している。現在、洗面台の高さを調節するよう要望があり、検討中であり、管理者は利用者支援についての職員からの要望は反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議、主任会議の際、報告を受けている。また、年度末には資格を取得した職員に努力賞を渡し、やりがいをもてるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、法人内で、毎月1回の受講、外での研修も受ける事を勧め、実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所見学は行っている。また、職員との交流を持ち、向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みに目を通し、生活歴や環境等、職員が理解し、対応する。不安や要望時は、家族へ連絡を取ったり、職員全体で話し合っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困り事、不安、要望はできる範囲で対応している。面会時に日常の様子を説明し、信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活への不安が多いため、施設の利便性等の説明を行い、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの性格や習慣を把握して、会話や手作業等を取り入れて、信頼関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の気持ちを家族と共に支える事が出来るように面会時や電話で近況説明を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は、個別に会話ができるようにお茶を出して、くつろいでもらっている。また、ドライブや散歩に出掛けて、馴染みの人や場所を思い出されるようにしている	家族や親せき、知り合いの訪問がある。リハビリ通院時には病院内で知り合いとあいさつや会話を楽しんでいる。家族の協力のもと、結婚式やお宮参りなどに出かけている。月に1回は家族と外出、外泊する利用者もいる。現在、里帰り企画を検討しており、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人とテーブルを囲んで、会話ができるように座席を設けたり、一つのテーブルにしてゲーム等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてた場合でも入院先を訪問したり、家族の相談時は必要に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好みや個別サービスを行い、無理のないように支援している	利用者の動作を見ながら声をかけ意向を確認している。発語困難な場合は表情からくみとり、口元の動きや視線を合わせて読み取れるよう根気強く取り組んでいる。把握した内容は朝のミーティングで伝えるなど職員間で共有し、支援に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に在宅ケアマネジャーや担当医師より情報を受け、本人・家族と面談を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者から夜勤者、夜勤者から日勤者へ申し送りを確実にし、心身状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を伺い、入居時から3日間生活情報収集を行い、職員間でカンファレンスを行い、介護計画書を作成している	家族の要望は面会時や郵送で聞き取り計画を作成し、完成した介護計画書に同意を得ている。見直しは短期6ヶ月、長期1年であるが緊急の場合はその都度見直している。ただし、一日の記録が少なく、計画と記録の連動が確認できない。また、職員の介護計画と日々の支援との連動について理解が不足している。	介護日誌は利用者の一日の様子を把握し、次の介護計画作成へ繋がる重要な記録でもあるため早急な検討が望まれる。また、職員が利用者の介護計画を理解することは支援の基本であり、今後の取り組みが待たれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別のケア記録を行い、申し送りノートや職員との会話のやり取りで情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出や介護タクシーでの外出支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーを利用して、お墓参りや自宅を見学に行ったり、支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院である北川病院と林歯科医院を利用契約時に説明し、同意を得ている 受診は、定期的に行い、病状によって通院介助を行っている	ほとんどの利用者は母体医療機関がかかりつけ医であり、それ以外でも契約時に説明して主治医の変更に同意を得ている。隣接する母体医療機関への受診は職員が通院介助を行っている。皮膚科・眼科は家族に協力を得ており結果や薬の変更など職員と家族で共有している。急変時も24時間対応のため家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に相談し、協力を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携を密にして情報提供を行っている 入院中は頻繁に見舞うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医との話し合いを行い、家族の意向を段階的に伺い、確認している。また、ミーティングで情報の共有をしている	事業所として看取りはしない方針である。利用者の病状の悪化や急変時は家族に連絡し、母体医療機関で対応することとしている。対応方針を文書で表明しており「意向確認書」で家族の意向を聞き、事業所としてできる内容の「支援確認書」で確認し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院(北川病院)が向かい側にあり、連携をとり、即、対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のケアハウスと合同避難訓練を年2回行っている。緊急時の連絡方法を懐中電灯に取り付けて、あわてないようにしている 訓練は地域の人にも連絡している	系列ケアハウスと合同で消防立会いの昼間訓練1回、夜間想定自主訓練を1回実施している。緊急連絡網、消防通報システムは完備している。訓練の地域参加の呼びかけもしており、自然災害時持ち出し物の確認、避難場所など法人全体で検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには、気をつけているが、介護者の感情が入るときがあり、徹底はされていない	職員は利用者の尊厳を重視した言葉かけについて理解しており、利用者一人ひとりの思いや希望をくみ取った言葉かけが必要だと考え支援している。事業所は職員の守秘義務の誓約書を取っている。ただし、利用者への食事介助には尊厳を重視した支援方法に課題が残る。	利用者の尊厳を重視した支援を行っているものの、限られた職員数で複数の利用者の食事介助を行う際に介護者本位の支援になっていないか、検証が必要と思われる。今後の取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような説明をしたり、選択できるような声掛けを行っているが足りない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の健康状態でリハビリを行ったり、体調が良くないときは、自室で過ごしたいと希望されるので、定期的に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の化粧水の塗布や散髪の支援を行っている 服装は外出や行事のときは、普段着と違ったものを選び、本人の希望に添えるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューの説明や行事食、四季に合わせた食事やおやつを提供している。また、暖かいうちに食できるように心がけている 食材の準備やテーブル拭きなどできる事をしていただいている	食事は週4回昼に職員が調理した料理を提供し、それ以外は配食サービスを利用している。利用者の摂食レベルに合わせてきざみ食などもあり職員が介助している。行事食やおやつバイキングなど利用者が飲み物やおやつを自由に選べる機会をつくり食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立表を作成し、栄養バランスを計算している 嚥下状態に合わせて、食材を刻んだり、とろみをつけたりしている。摂取量のチェック表を作成し、記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、出来ない人は義歯の洗浄を行い、夜間ポリドント洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者のパターンを把握して、昼間はトイレでの排泄介助を行っている 夜間は、希望を聞いて、ポータブル設置や声掛けを行い、介助している	職員は全利用者の排泄チェック表を作成し排泄状況を把握してトイレ誘導を行っている。夜間ポータブルトイレを設置していた利用者が、職員の支援によってトイレでの排泄となった例がある。また、リハビリパンツとパッド併用の利用者が布パンツに改善するなど排泄の自立支援への取り組みが確認できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表と申し送りノート記入で確認している 飲水の働きかけや繊維の多い食材を取り入れている。便秘の人は、主治医へ報告・相談して、便秘薬処方を受け、与薬している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の曜日を設定しているが、その人に合わせた湯加減でゆったりと入浴されている	入浴日は週3回を基本としており、時間は利用者の希望も可能である。入浴後の着替えは利用者が選んでいる。日曜日は足浴をしたり、利用者の状況で隣接のケアハウスの機械浴を利用している。お茶やミカンの皮など季節の湯もあり、利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜ゆっくり眠れるよう、昼間はなるべく離床を促している その人に合わせた照明や室温調整し、寝具持ち込みも支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の効能や副作用の一覧表を個別台帳を作成し、確認している 新薬処方や臨時薬は、申し送りノートに記載し、二人で確認し、与薬介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや貼り絵、カルタ取り等、他の入居者と交流が出来るよう支援している 手作業を楽しみとされている人もいたり、春・秋のドライブなどを行い、気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リハビリ通院、介助後、施設の周りを散歩したり、買い物支援をしている ドライブでは、利用者の希望を聞いて支援している	事業所は情緒豊かな街並みの商店街の一角にあり、日常的に散歩や買い物を支援している、週に3回リハビリ通院を利用して周囲を散歩したり、近くの温泉足湯など楽しんでいる。車いす対応で季節のドライブで城下の雛祭りなどに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっている人には、必要時に身の回りの品物を購入支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望されたときや贈り物が届いたとき、家族との会話がしたいときなど出来るように支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、窓の外を眺められるようにしている。また、壁には、ドライブの写真や食のチラシなどを貼り、楽しめるように支援している	リビングからは近隣の歴史を感じる街並みが眺められ、明るく清潔感がある。壁面には利用者や家族が楽しめるようにお祭りの様子の写真が飾られている。利用者はテレビや気の合う人同士で会話するなど和やかな雰囲気である。共有空間の掃除は朝食後職員が行っており、気になる臭気もなく明るく快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好みのテレビ番組を観たり、利用者同士の会話をされたり、なじみの場所で居眠りされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテレビ、寝具などの持ち込み、家族の写真・アルバム、宗教の守護などの持ち込みもあり、本人の居心地を工夫している	広々とした居室は採光も取れて明るい。利用者の希望に応じテレビやソファなどが置かれており、家族の写真や信仰している宗教のものなど自由に持ち込まれている。乾燥しないよう濡れタオルを置いたり、利用者が居室を離れる食事時間に換気しているため臭気もなく快適である。掃除は朝食後に職員が行い居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や日めくりカレンダーや時計などで安心できる生活を支援している 浴槽内に滑り止めマットや浴用椅子などの使用で安全安心に心がけている		